

論文題目「学習方法と評価を中心とする国語科指導の研究」

教科・領域教育専攻

指導教員 村井 万里子

言語系（国語）コース

森 正人

序 章 研究の目的と方法

本研究の目的は、国語科の学習方法や評価の理念を明らかにすることによって、学習者一人ひとりの言語能力の発達段階を正確に捉え、個に応じた学習方法の在り方を追究することである。正確な評価が学習方法の基盤であることを、本研究によって明らかにしたいと考えている。

第1章 国語科教育における評価の基礎研究

国語科教育における評価について考察を深めていくためには、学習者が国語科教育を通して身につけていく言語能力を明らかにする必要がある。本来、学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」全てについて、学習者が身につけていく力を網羅する必要があるが、本論では「読むこと」、特に説明的文章における「読む力」に焦点を当て、学習者が説明的文章を学習することを通して身につけていく言語能力を明らかにするために、評価の基本的な理念や評価につながる学力観をふまえて、説明的文章における評価の在り方を探りたいと考えている。

第1節 評価活動の基本理念

第1節では、国語科学習における評価のあり方について考察する。はじめに、国語科だけではなく、教育全般における教育評価について、目的・対象・参加者といった観点から考察を進め、教育評価の中核に位置する学力評価の中で

も、個人内評価、到達度評価、そして、現在の教育現場で行われている目標準拠評価についての基本的な理念を明らかにした。

1 学力評価の基本理念

評価結果を指導に生かしていくという「指導と評価の一体化」は、評価の目的を学力の評定だけに限定するのではなく、その評定から学習者を次の段階へと導く指導の指針となる。そうして、初めて教育評価の目的は達成される。

2 学力評価の種類

- 認定評価…教師という”絶対者”を基準とする評価（戦前の絶対評価）
- 相対評価…ある集団内での子どもたちの位置や序列を明らかにする評価
- 個人内評価…一人ひとり個々の子どもの成長を見ようとする評価
- 到達度評価…到達目標（目標内容が到達点として氏増されるもの）を基準とし、それに到達しているかどうかで学習者を評価する。
- 絶対評価…学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価

3 国語科学習における到達度評価

到達度評価の問題点としてあげられているのは

- 筆記テスト主体の評価
 - 知識の測定に主眼をおいた目標の設定
 - 目標の一覧と指導過程の同一視
- の3点である。学習者の学びや学力を「知識」の観点のみでとらえると、学習へのフィードバ

ックという、到達度評価の本質から大きく乖離する。

第2節 評価基準作りの理念と方法

1 学力の種類と評価法

西岡氏は、学力を「知識」「理解」「推論」「実演スキル」「完成作品」「態度の傾向性」の6つに分類している。「完成作品」については「様々な種類の学力が複合的に発揮されている場合に焦点を合わせてい」て実用的であると評し、それを対象として評価するパフォーマンス評価の方法を学んだ。

2 スティギンズの学力論による国語科の学力

スティギンズの学力説を考慮して、国語科の学力をとらえると「知識」は、表現や理解が共通して有するもので、その中で、推論を「思考・判断」ととらえると、推論は「表現」や「理解」といった言語活動に伴われる。「実演スキル」は表現や理解といった言語活動、言語活動の結果が「完成作品」と考えられる。

第3節 説明的文章を読む学力観

1 説明的文章の特質

ここでは、説明的文章の特質を明らかにするために、説明的文章の指導について多くの提言をしている渋谷孝氏、市毛勝雄氏、森田信義氏の3氏の考えを比較することを通して、本論で考察する説明的文章の特質や概念を明確にした。

2 説明的文章指導の目的

説明的文章指導の目的は、学習者がものごとを「認識する」ということである。特に市毛氏、森田氏は究極の目的としている。渋谷氏は「各自の過去経験の質を基にして、文章を読みとくことを通して、未知のこと、未経験のことを類推して、間接的にせよ理解し、認識を深めていく」ことが認識の妥当性を高める有効な方法と考えている。

3 説明的文章における認識の構造

学習者が説明的文章を読むことで、ものごとを認識するということが、具体的な条件や段階について、渋谷氏はその実態の方について分析をしている。そこで、渋谷氏の分析から、論理的にもものごとを認識するということが構造を

た。

4 説明的文章指導の特質

森田氏や渋谷氏は、説明的文章の文脈（脈絡や構造）を内容を理解する上で重視していた。そこで、渋谷氏と森田氏の2氏の提唱する説明的文章指導論から、文脈を認識することの本質をさぐった。

5 説明的文章を読む力の系統

説明的文章を読むことは、論理やことがらることばと関係づける力が重要であることが理解できた。そこで、説明的文章を読む力の系統性が説明的文章を読み進めていく過程が文章を読む力の段階と一致することが分かった。

第2章 少人数指導による国語科指導の試み第

第2章では高松市立亀阜小学校で行われている少人数国語科指導の実践を通して、評価基準の作成に取り組む。第1節では、少人数授業の意義と問題点、そして亀阜小学校での取り組みについて考察する。第2節では実際の少人数国語科授業での具体的な学習活動例からパフォーマンス評価を行い、具体的な評価基準、ルーブリックを作成する。

1節 少人数国語科指導の意義と問題点

本節では国語科少人数授業の目的、方法、成果、問題点を現任校の例をあげ、具体的に考察を進めていく。

1 少人数授業の意義

- ① 学力差を感じさせないコース分け
- ② コース分けが生み出す交流する力
- ③ 見通しと意欲をもたせる評価カード
- ④ 定着のためのきめ細やかな指導
- ⑤ 教師が変わる・子どもが変わる

2 少人数授業の問題点

- ① 自己決定でコースを選ぶが、その選択が友達などの外的要因に左右されることがある。
- ② 習熟度別でコースを設定した場合、下位のコースの学習が成立しない場合がある。
- ③ 他方の学習状況が把握できないために、学習者の学習状況の把握が難しい。

第2節 具体的な表現物による評価基準作り

学習者の活動から評価基準を作成した。